

米作り、二千年にわたる大地の記憶

シリーズ日本遺産 ⑧

「菊池川流域「今昔『水稻』物語」」

問い合わせ先
三加和公民館
(社会教育課)
0968・34・3047



菊池川 日本遺産 検索

遺跡位置図



①鞠智城跡 ②条里跡(上内田川流域)
③条里跡(玉名平野)

平地に田を拓く
(条里跡、鞠智城跡)

条里跡

7世紀以降、日本の政治は天皇中心の仕組みとなります。当時の政府は、国中の土地を同じ広さで碁盤の目のような正方形に区分けしました。この土地区画法を条里制といいます。まず、全国を約60の国に分け、さらに国を郡に分けました。そして郡を6町(約654畝)間隔で縦横に区切り、縦(南北)の列を条、横(東西)の列を里としました。その一区画を「里」と呼び、それをさらに一辺が1町(約109畝)の36の正方形に区切り、それを「坪」としました。

川本流沿いの平地、またその支流である山鹿市の上内田川や岩野川沿いの平地、さらに下流の玉名平野の菊池川沿いの平地が条里跡とされています。現在も、上内田川流域と玉名平野には、条里制当時の区画(一辺約109畝の区画)がそのまま残り、いわば「千年以上の田園風景」が続いているのです。

川本流沿いの平地、またその支流である山鹿市の上内田川や岩野川沿いの平地、さらに下流の玉名平野の菊池川沿いの平地が条里跡とされています。現在も、上内田川流域と玉名平野には、条里制当時の区画(一辺約109畝の区画)がそのまま残り、いわば「千年以上の田園風景」が続いているのです。

これまで県教育委員会が中心となって発掘調査が行われ、城門や建物の跡、貯水池の跡が確認されました。また、稲を納めたことを示す木簡や、百済との関連を示す仏像や瓦などが見つかりました。城の周りは谷が入り組んだ複雑な地形ですが、西側の平地には上内田川流域条里跡が広がります。米が得やすく、守りやすい土地であったためこの地に城が築かれたのでしよう。

現在一帯は歴史公園として整備され、たくさんの方が訪れています。
(担当…山鹿市社会教育課)



条里跡(玉名市)

鞠智城跡

条里跡
7世紀以降、日本の政治は天皇中心の仕組みとなります。当時の政府は、国中の土地を同じ広さで碁盤の目のような正方形に区分けしました。この土地区画法を条里制といいます。まず、全国を約60の国に分け、さらに国を郡に分けました。そして郡を6町(約654畝)間隔で縦横に区切り、縦(南北)の列を条、横(東西)の列を里としました。その一区画を「里」と呼び、それをさらに一辺が1町(約109畝)の36の正方形に区切り、それを「坪」としました。

鞠智城跡は東アジア情勢が緊迫した7世紀後半に、唐(中国)や新羅(朝鮮)からの攻



ロゴマーク

ロゴマークが決定
全国から351点の応募があり、菊池川流域日本遺産協議会で次のとおり決定しました。作者は菊池市在住のデザイナー緒方徹さん(54)です。緒方さんは「流域の『ストーリー』」に焦点を当て、川と時間の流れを絵巻としてデザインしました。さまざまな文化財を日本昔話風に表現することで、多様な要素がこの流域に詰まっていることを表しています」と話しました。

歴史調査の楽しみ方

神尾城跡

5

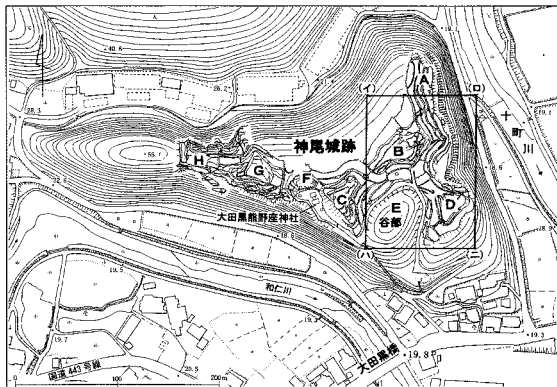
大田幸博
(元菊池町史編纂委員会副委員長)

2 月から、B地区とD地区の調査に入りました。先月号で、公園の様な東側区画と表現したところですが、かつて、ここも杉の植林地でしたが、近年の台風で多くの倒木があり、尾根が露呈した状態になりました。C・D地区と違い、この範囲は、細部に亘って造成されています。
〔B地区〕 鋭角三角形の尾根筋です。北東端の小高台は、尾根の削り残しで、高城と呼ばれています。周縁部の崖面は、凝灰岩が急峻に削り出されて、際立っています。南壁面の高さ3・9m。

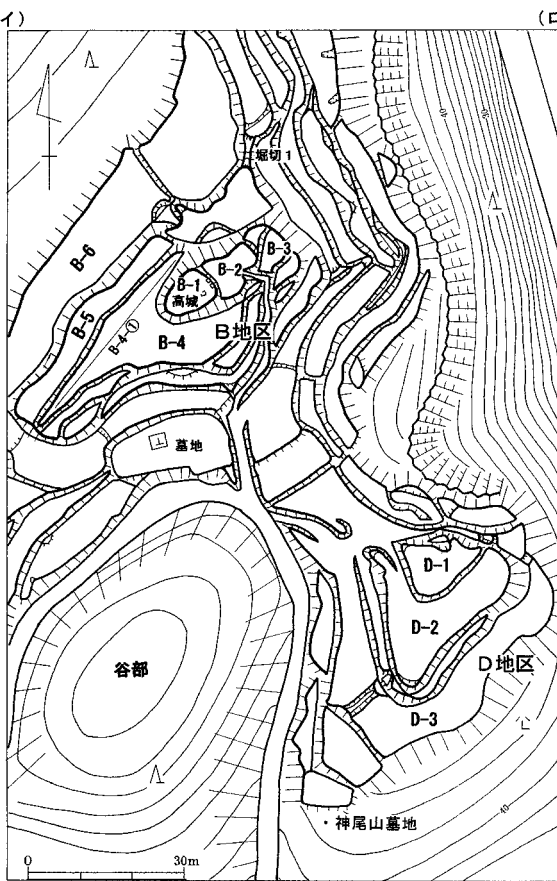
B-1…最高所は、62・6m、南東下に大田黒橋(和仁川に架かる橋)との高低差は42・8m。規模は、10×7・5×3・5m。非常に狭く、山神などを祀った神聖な所と考えられます。
B-2…B-1の北東下に位置し、高低差は0・5m。規模は、9×7・5×3・5m。高城の上がり口になります。
B-3…B-2の東下に位置し、高低差は1・8m。規模は16×9m。
B-4…B-1・3の南西下に位置します。規模は、B-4―①で43m、先端部は、完全にすばまります。

B-5…B-4―①の北西下に位置します。高低差は、43・5m×5・0×2・5m。北西下のB-6との高低差は4・1m。この崖面も急峻に削り出されています。
〔D地区〕 B-1の南南東に位置し、両地区の直線距離は60m。縄張りの状態から、実用的な区画と判断しています。
D-1…最高所の標高は、64・6m。隅丸の三角形で、規模は15×11・5m。
D-2…D-1の外枠で、高低差は1・3m。規模は30×23m。広い区画で

す。
D-3…D-2の南下に位置します。高低差は4・4mもあります。崖面は凝灰岩で、B地区と同様に、47×12×5m。D地区には、建物の存在が考えられます。
〔付記〕 C・D地区は、尾根を大規模に荒々しく造成してあります。有事の際は、ここで背水の陣を敷き、敵方を迎え討つと考えられます。これに対して、穏やかな造りのB地区は、平時における城のシンボリックな区画だったのでしよう。



神尾城跡周辺地形図



B・D地区周辺図



B-4よりB-1(高城)を見る
(凝灰岩の削り出し)